

ヲ記載シタル證書ヲ認メ鑒定人ヲシテ之ニ調印セシメ之ヲ陸揚願書ニ添テ海關ニ
差出シ減稅ヲ請フヘシ但此場合ト雖モ第十二款ニ載スル如ク更ニ鑒定評價スルヲ
妨ケス

第十四款 若シ陸揚願書或ハ舩積願書ニ載セサル物品ヲ荷物ノ内ニ隠シ入レ關稅ヲ
逋脱セント謀ル者アラハ該品ヲ官ニ沒收スヘシ又若シ荷物ノ品種數量等ヲ偽リ或
ハ可稅品ヲ免稅品目錄中ニ偽記シテ關稅ヲ逋脱シ又ハ減少セント謀ル者アラハ相
當ノ關稅ヲ納メシメタル上罰金トシテ其逋脱若クハ減少セント謀リタル稅金高ノ
五倍ヲ課スヘシ

第十五款 舩中乗組人及ヒ旅客ノ自用品ヲ陸揚或ハ舩積スルニハ海關ノ免狀ヲ請フ
ニ及ハス然レトモ海關官吏ニ於テ其品々ヲ檢査シ若シ自用ト認メ難キ過分ノ可稅
品ヲ所持スルトキハ稅目ニ照シ之ニ相當ノ稅ヲ課スヘシ又旅具中ニ禁制品ヲ隠ス
モノハ本品ヲ沒收シ阿片ノ如キハ第三十六款ニ從テ處分スヘシ

第十六款 日本公使館所用ノ物品ニハ總テ關稅ヲ課スルコトナシ且之ヲ檢査スルコ

ト莫ルヘシ

第十七款 燧發質若クハ危險質ニ係ル荷物ノ揚卸場ハ豫メ之ヲ定メ置キ其場所ノ外
之ヲ揚卸スルヲ許サス

第十八款 朝鮮國ノ通商港ニ輸入シタル關稅納濟ノ諸物品ハ之ヲ朝鮮國ノ諸部ニ輸
送スルニ當テ運送稅或ハ内地通關稅其他一切ノ稅ヲ賦課スルコト莫カルヘシ又輸
出ノ爲メニ朝鮮國ノ各部ヨリ通商港ヘ運送スル所ノ物品ニモ右同様運送稅内地通
關稅其他一切ノ稅ヲ課セサルヘシ

第十九款 輸入物品關稅納濟ノ後更メテ之ヲ他ノ開港場ヘ轉送セントスル者アラハ
其荷物ヲ解開ケ若クハ物品ヲ抽キ換ヘ或ハ挿シ入レタルコトナク元形ノマ、タルコ
トヲ海關ニ於テ見届ケタル上ハ納稅濟手形ヲ渡スヘシ他港ノ海關ニテハ其荷物ヲ
右ノ手形ニ引合セテ相違ナクシテ重子ヲ輸入稅ヲ課スルコトナシ若シ物品ヲ抽キ
換ヘ或ハ挿シ入レタル等ノ事アラハ其抽キ換ヘ若クハ挿シ入レタル物品ニ付相當
ノ稅ヲ納メシメタル上罰金トシテ其稅額五倍ノ金高ヲ課スヘシ

第二十款 輸入物品荷主引取リタル後之ヲ積戻サシコトヲ請フ者アルトキハ海關ニ
之ヲ検査シ果シテ輸入品ニ相違ナキヲ証左アレハ輸出税ヲ課スルコトナク其積
戻ヲ許スヘシ

第二十一款 日本商船朝鮮國ノ通商港ヘ積ミ回ル朝鮮國產物ハ最初朝鮮港ヨリ輸出
セシ時ノ性質及ヒ有様ヲ變換セス又其輸出ノ日ヨリ起算シテ三周年ヲ経過セス且
其輸出ノ時受取タル船積免狀ヲ相添ヘ輸入人ニ於テ其朝鮮國產物タルコトヲ證明
スルニ於テハ無税通關ヲ許スヘシ

第二十二款 朝鮮國沿海運輸ノ便相整フ迄ノ間日本國商船ハ其何國ノ物品タルヲ問
ハス之ヲ搭載シ通商各港ノ間ヲ往來スルヲ得ヘシ但各通商港ニテ買入タル朝鮮產
物ヲ朝鮮國ノ他ノ通商港ヘ輸送セシト欲スル時ハ其物品ノ輸出税ニ等シキ金額又
ハ其金額ヲ擔保スヘキ相當ノ保証人 税關長ノ滿ヲ選ミ其證書ヲ其輸出港ノ海關ニ
預ケ置キ而シテ他ノ通商港ニ到リテ右物品ヲ陸揚スルトキ陸揚證書ヲ其港ノ海關
ヨリ受取リ 尤輸入税ヲ拂フコトナシ 輸出ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ之ヲ輸出港ノ海關ヘ指出シ最初

預ケ置キタル金額ヲ請戻シ又ハ證書ノ返却ヲ乞フヘシ然レトモ若シ其輸送船ノ難
破ニ遭フコトアレハ輸出ノ日ヨリ一年以内ニ右證書ノ代リトシテ日本領事官ノ確
認シタル難破證明書ヲ差出スヘシ但朝鮮國ノ船隻不足ナキ日ニ至レハ此口ノ貨ヲ
彼口ヘ運載スルニ他國ノ船隻ヲ用ヒス

第二十三款 各通商港海關ノ荷物ヲ取扱フ處ニハ朝鮮政府ニテ上屋ヲ建設シ且又輸
出入荷物等ヲ預置クヘキ借庫ヲ築造スヘシ尤藏敷料及ヒ其他ノ事ハ別ニ其規則ヲ
協議設定スヘシ

第二十四款 輸入荷物ノ税ヲ納メシテ之ヲ海關倉庫ニ預ケント欲スルモノハ倉庫
規則ニ從ヒ海關長ノ免許ヲ受ケサルヘカラス然ルトキハ右荷物ヲ再ヒ日本國ヘ積
戻サントスルトキハ其マ、輸出スルヲ得ヘシ又既ニ納税シタル荷物ト雖モ右倉庫
内ヨリ直チニ積戻スニ於テハ其既納ノ税金ヲ返還スヘシ尤一旦荷主ノ許ニ引取リ
タル荷物ハ第二十款ノ例ニ據ルヘシ但朝鮮政府ニテ借庫ヲ建築セサル間ハ荷物ヲ
引取リタル後ト雖モ原包ノマ、ナレハ海關ニ於テ既納ノ輸入税ヲ還付シ積戻スニ

トナ許スヘレ尤一々年ヲ過クル者ハ第二十款ノ例ニ同シ

第二十五款 日本商船修復ノ爲メ其積荷ヲ陸揚スヘキコトアラハ關稅ヲ納メステ
之ヲ陸揚シ海關所轄ノ上屋或ハ倉庫ニ入置キ 但藏敷料及諸雜費ハ 修復濟ノ後之ヲ
船積スルコトヲ得ヘレ然レトモ若シ其荷物ヲ賣拂フコトアラハ相當ノ關稅ヲ納ム
ヘシ又朝鮮海邊ニテ破損シタル船舶ノ船財船具及ヒ船用品ヲ賣卸スルトキハ其輸
入稅ヲ免除スヘシ

第二十六款 日本商船出港セント欲セハ拔錨前ニ船長或ハ其代理人ヨリ先ツ出港届
書及ヒ輸出積荷目錄ヲ海關ニ差出シ領事ノ船書預リ証書ヲ請戻シ出港免狀ヲ得テ
後出港スヘシ

第二十七款 出港ノ手數ヲ爲レ了リタル船舶都合ニ由リ再ヒ荷物ヲ船積シ若クハ船
卸セント欲スルトキハ更ニ入港ノ手數ヲナシ出港スルトキハ亦出港ノ手數ヲナス
ヘシ又出港手數ノ濟ミタル上出港時期ニ及フト離モ拔錨シ能ハサルトキハ船長或
ハ其代理人ヨリ其旨ヲ海關ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第二十八款 船長出港免狀ヲ得ント欲スルモ海關諸規則ニ違反スルノ事件アリテ未
タ裁判ヲ經サル間ハ海關ニ於テ之ヲ與ヘサルヘシ尤領事官ニ於テ船長ニ至當ノ引
受人ヲ立シムルカ又ハ相當ノ保證金ヲ出サシメタル上海關長ニ通牒スルトキハ海
關長ハ出港免狀ヲ與フヘシ

第二十九款 郵船ハ同日若クハ同時ニ入港手數ト出港手數ヲ爲スコトヲ得ヘシ又輸
入積荷目錄ニハ其港ニ於テ陸揚シ若クハ船移スル所ノ荷物ノ外之ヲ掲記スルコト
ヲ要セス又輸出積荷目錄ハ船長ヨリ差出シ能ハサルトキハ其郵船會社ノ代理人ヨ
リ出港後三日内ニ之ヲ指出スモ妨ケナシ

第三十款 船中ノ需用品ヲ求ムル爲メ若クハ災厄ヲ避ル爲メ朝鮮ノ通商港ニ立寄リ
タル日本商船或ハ漁船ハ入港手數及出港手數ヲ爲スニ及ハス但斯ノ如キ船舶ト雖
モ二十四時以上碇泊スルトキハ其次第ヲ海關へ届出ツヘシ尤引續キ貿易ヲ爲スト
キハ必第二款ノ規則ニ從フヲ要ス

第三十一款 朝鮮政府ニ於テ後來通商各港内ヲ修理シ及ヒ燈臺標標ヲ設クヘシ尤之

ヲ維持スル費用ニ充ツルカ爲メ日本商船ノ各通商港ニ來航スルモノハ噸税トシテ
每噸百二十五文ツ、ヲ納ムヘシ 但何石積ト稱スル船ハ日本ノ六石右噸税ヲ納ムレ
ハ海關ヨリ四ヶ月限ノ手形ヲ渡シ右期限中ハ朝鮮國內何レノ通商港ニ到ルトモ復
タ噸税ヲ納ムルニ及ハヌ又入港ノ商船荷物ヲ陸揚セヌシテ他所ニ赴カントスル者
二日內ニ出港スルトキハ噸税ヲ納ムルニ及ハヌ尤風雨或ハ大霧等ニテ出港シ難キ
モノハ其次第ヲ海關ニ届出ツヘシ但漁船ハ噸税ヲ納メヌ尤噸税ハ他國ノ商船若シ
日本船ト同數ノ多キニ至レハ公同協議シテ改定スルコト有ルヘシ

第三十二款 軍艦其他日本政府ニ屬シ商品ヲ搭載セサル船舶ノ朝鮮國通商港ニ到ル
モノハ入港手數及ヒ出港手數ヲ爲スコトナク又噸税ヲ拂フコトナク且海關官吏之
ヲ監守スルコト莫カルヘシ然レトモ其船中所用品ノ内不用ノ分ヲ陸揚シテ之ヲ賣
拂フトキハ其買主ヨリ之ヲ海關ニ届出テ相當ノ關稅ヲ納ムヘシ

第三十三款 日本商船若シ朝鮮國ノ不開港場ニ於テ密商シ或ハ密商セント謀ルモノ
アラハ該商品ハ勿論其搭載スル所ノ商品ヲ朝鮮政府ニ沒收シ船長ニ五拾萬文ノ罰

金ヲ課スヘシ但風波ノ難ヲ避ケ或ハ薪水食料ヲ求ムル爲メニ一時寄泊スル者ハ此
例ニ非ス

第三十四款 朝鮮國政府又ハ人民ニテ荷物人員等ヲ不開口岸ニ運送セント欲スルト
キハ日本商船ヲ雇入ル、コトヲ得ヘシ雇主若シ人民ナレハ朝鮮國政府ノ免狀ヲ得
テ之ヲ僱使スヘシ

第三十五款 此規則中ニ掲グル所ノ罰金沒收及ヒ其他ノ罰則ニ關スル事件ハ海關長
ノ告訴ニ因リ日本領事官ニ於テ之ヲ裁斷スヘシ尤其取立タル罰金及ヒ沒收シタル
物品ハ總テ朝鮮政府ノ領收スル所トス故ニ朝鮮官吏ノ差押ヘタル物品ハ該官吏ト
日本領事官ト立會ノ上ニテ之ニ封印ヲ施シ裁斷ヲ了ル迄海關ニ留置クヘシ若シ領
事官ニ於テ之ヲ無罰ニ決スルトキハ其物品ハ領事ヲ經テ荷主ヘ引渡スコト勿論ナ
リト雖モ朝鮮官吏若シ其裁判ニ服セサルトキハ日本國相當ノ裁判所ヘ控訴スヘシ
然ルトキハ荷主ハ其物品ノ代價ヲ裁判完結ニ至ルマテ領事館ニ預ケ置クヘシ若シ
其差押ユル所ノ物品腐敗質變態質或ハ危險質ニ係レハ其代價ヲ領事館ニ預リ置キ

物品ハ荷主ニ渡スヘシ

第三十六款 鴉片ハ輸入ヲ嚴禁ス若シ鴉片ヲ密輸シ或ハ密輸セント謀ルモノアラハ其品沒收ノ上密輸高一斤ニ付七千文ツ、ノ罰金ヲ課スヘシ但朝鮮政府需用ノ爲メ輸入スルカ又ハ在留日本人民藥用ノ爲メ日本領事官ノ證明ヲ經テ輸入スルモノハ此限ニアラス

第三十七款 若シ朝鮮國水旱或ハ兵燹等ノ事故アリ境内飢食ヲ致スヲ恐レ朝鮮政府暫ク米糧ノ輸出ヲ禁セント欲セハ須ク其期ニ先ダツ一ヶ月前ニ於テ地方官ヨリ日本領事官ニ照知スヘシ然ルトキハ豫メ其期ヲ在各港ノ日本商民ニ轉示シ一體遵守セシムヘシ米穀類ハ進口出口トモ五分稅ヲ課スト雖モ如シ朝鮮國ニ災荒アリテ進口ヲ要シ或ハ日本國ニ災荒アリテ出口ヲ要スルトキハ知照ヲ經テ進出稅ヲ免スヘシ

第三十八款 大小銃銃諸種彈丸火藥雷粉其他一切ノ軍器ハ朝鮮政府又ハ朝鮮政府ヨリ軍器買入ノ免許ヲ受ケタル朝鮮人ヲ除クノ外朝鮮人民ハ賣渡スコトヲ許サス若シ

之ヲ密賣スル者アラハ其品ヲ沒收スヘシ

第三十九款 此規則中罰科ヲ掲ケサル條款ニ違背スル者アルトキハ壹万五千文以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第四十款 此規則ニ定ムル所ノ稅金及ヒ罰金ハ朝鮮銅錢ヲ以テ之ヲ納ムヘシ或ハ日本銀貨ヲ以テ時ノ相場ニ從ヒ換用スヘシ尤墨斯哥弗ハ日本銀貨ト同價ナルヲ以テ之ヲ換用スルモ亦妨ケナシ又第二第三第四第六第三十三ノ諸款ニ掲クル所ノ罰金及ヒ手数料ハ其商船五百噸以下ハ二分ノ一ヲ科シ五拾噸以下ハ四分ノ一ヲ科スヘシ

第四十一款 日本國漁船ハ朝鮮國全羅慶尙江原咸鏡ノ四道朝鮮國漁船ハ日本國肥前筑前長門朝鮮海ニ石見出雲對馬ノ海濱ニ往來捕魚スルヲ聽スト雖モ私ニ貨物ヲ以テ貿易スルヲ許サス違フ者ハ其品ヲ沒收スヘシ但其所獲ノ魚介ヲ賣買スルハ此例ニ非ス其彼此應納ノ魚稅及ヒ其他ノ細目ニ至テハ進行兩年ノ後其景況ニ隨ヒ更ニ協議酌定スヘシ

第四十二款 此規則ハ開印ノ日ヨリ百日内ニ日本朝鮮兩政府ノ允准ヲ經ヘキモノニシテ右百日經過ノ後直チニ之ヲ實踐スヘシ然ル片ハ從來ノ貿易規則及ヒ其他ノ諸約書中此規則ノ諸條款ニ抵觸スルモノハ總テ其効ヲ失フモノトス尤現時若クハ後來朝鮮政府何等ノ權利特典及ヒ惠政恩遇ニ論ナク他國官民ニ施及スルモノアラハ日本國官民モ亦猶豫ナク一體均霑スルヲ得又此規則ハ實踐ノ日ヨリ五箇年ヲ以テ期トス故ニ其ノ滿期前ニ於テ兩國政府更ニ協議ヲ遂ケ新規則ヲ設立スルヲ要ス但若シ協議中其期ヲ過クルコトアルモ新規則設立マテハ此規則ニ據テ辦理スルモノトス且又兩國ノ官定此規則内ニ掲載セサル條款ヲ增加スルヲ以テ彼此共ニ必要ト考フ時ハ隨時商議ヲ開クヲ得ヘシ

右證據トシテ兩國ノ全權大臣此條約ニ名ヲ記シ印ヲ關スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辦理公使竹添進一郎印

朝鮮國海關稅目

全權大臣督辦交涉通商事務閱泳穆印

輸入之部

第一 藥材製藥及香料

五分稅

諸藥材 他項ニ掲グル者ヲ除ク ○諸製藥類 ○明礬 ○膠(各種ノ)

○樟腦

壹割稅 (從價)

龍腦 ○丁香 ○麝香

貳割稅 (從價)

安息香 ○乳香 ○沈香 ○白檀 ○甘松 ○線香 ○其外香料

第二 染料及顏料

八分稅 (從價)

乾藍水藍 ○漆 ○蘇木及蘇木越幾斯 ○五倍子 ○紅花○染粉 ○其他別項ニ
掲載セサル一切ノ染料 ○色油 ○各色鉛粉及亞鉛粉 ○洋漆 ○紺青 ○雌黃
○郡青 ○綠青 ○朱 ○其他別項ニ掲載セサル一切ノ顏料

第三 金屬及金屬製品類

五分稅 (從價)

日本銅

八分稅 (從價)

鐵、銅、鉛、錫、汞夾金其他別項ニ掲載セサル諸金屬類(塊錠條桿板葉等ノ別ナリ) ○鐵
線及銅線 ○銅鐵釘類 ○水銀 ○ソルダ ○白銅 ○アンチモニー ○鍋釜刃物
及鐵製ブリキ製其他總テ金屬製品類

一割稅 (從價)

金銀銅錫ノ箔類

二割稅 (從價)

金銀器及鍍金銀器

第四 油蠟脂類

五分稅 (從價)

石炭油

八分稅 (從價)

諸種ノ油別項ニ掲載セサルモノ ○蜜蠟木蠟 ○瀝青及タール ○獸蠟 ○其他別項
ニ掲載セサル一切ノ油蠟脂類 ○柿ノ油 ○レノブ ○セサナン ○蠟燭 ○髮付
油 ○氣油

第五 布帛類

八分稅 (從價)

生平 ○海黃 ○袖 ○給子 ○郡内 ○絹緞 綿純子 綿給子 綿紋給子 綿給
子 ○生金巾 ○白金巾 ○唐綾 ○雲齊小倉織 紋羽類 ○天竺布 ○寒冷紗 ○
緋金巾、色金巾、紋金巾、綾金巾 ○左頁紗 ○綿緞 ○綿天鵝絨蚊帳巾、褥巾 ○

純毛吳呂 ○綾吳呂 ○畔吳呂 フラネル(純駁ノ別ナク) ○モヘイル(全) ○毛縞子
○縮緬吳呂(純駁ノ別ナク) ○純毛羅紗 ○縮毛羅紗 ○毛純子、羅世板セルマ
ス、スパノスストライプス(純駁ノ別ナク) ○アルバカ ○麻布、麻綿布、及麻毛布
類(生色白色ノ別ナク) ○^{フランネル}臥氈 ○帆布(綿麻共) ○其他別項ニ掲載セサル一切ノ
絹綿毛及麻布ノ類 ○油布織布

壹割稅 (從價)

紗 ○縮緬 ○琥珀 ○羽二重 ○綴子、縹子綾類

貳割稅 (從價)

天鵝絨 ○^{カレソット}諸種地氈類

第六 文具紙類

五分稅 (從價)

日本人自用雜紙

八分稅 (從價)

印刷用洋紙(何國製ニ拘ラス) ○包裝用洋紙 ○諸日本紙 ○墨池、封筒、鉛筆、洋筆、
毛筆、石盤等 ○各種墨

壹割稅 (從價)

色紙 ○紋紙 ○印材 ○印肉 ○其他別項ニ掲載セサル一切ノ文具紙類

第七 飲食物及烟草類

五分稅 (從價)

穀物穀粉 ○生水菓 ○日本人所食ノ物 ○味噌醬油及酢

八分稅 (從價)

鹽 ○茶 ○醃肉、醃魚、及罐詰食料 ○素麵 葛粉 ○寒天 ○落花生豆 ○檸檬
水、生姜水、曹達水、及諸飲料類 ○其他別項ニ掲載セサル一切ノ飲食物類 ○白黑
砂糖 ○糖蜜糖水 ○日本酒 ○清國酒 ○林檎酒

壹割稅 (從價)

麥酒(諸酒ノ) ○赤白葡萄酒

壹割五分稅 (從價)

冰糖精製糖 ○果子類

貳割稅 (從價)

卷烟草紙卷烟草其他一切ノ烟葉

貳割五分稅 (從價)

ウヰルムート ○ポルト ○レニロ

三割稅 (從價)

ブランドイ ○ウイヌキー ○シヤンペイン ○櫻酒 ○杜松子酒 ○リキウル

○糖酒 ○燒酎及泡盛 其他別項ニ掲載セサル一切ノ酒類

第八 雜貨

五分稅 (從價)

石炭及コークス ○日本人常用器具 ○家根板 ○襖、障子 ○蠶 ○石灰 ○礮

石 ○砂紙 ○摺附木 ○諸石輪類 ○靴 其他履物及傘 ○提灯 ○膳、椀、重箱

鐵臺、箆笥、盆及總テ木製器具 ○日本人建造房屋用竹木材

八分稅 (從價)

木材、竹材、石材 ○煉化石及瓦 ○皮、角、骨、牙、蹄、羽、毛類 (工ヲ經サルモノ)

○木炭 ○籐 ○綿莢 ○綿糸 ○生糸、與斗糸、屑糸 ○天蠶糸 ○羊毛其他獸毛

○苧麻 運貨車絛 ○金剛砂 ○綿子、菓子、麻子、亞麻子、胡麻子 ○燈心 ○弗箱

○器械 ○食器用、磁器陶器類 ○別項ニ掲載セサル一切ノ雜貨 ○臥床、椅子、其

他家具 ○衣服帽靴其他服飾品 ○目鏡 ○象牙及一角牙 ○扇及團扇類 ○齒磨

○窓玻璃及玻璃片 ○洋燈及其部分

壹割稅 (從價)

熟皮類 ○馬具及馬車 ○諸玻璃器類(別項ニ載セサルモノ) ○鏡類(廓ノ有無ニ

拘ラヌ) ○紫檀、黑檀、テイクヌ木、黃楊木、鉄刀木及總テ堅硬木 ○蝙蝠傘(絹製鉄

幹) ○旅櫃、提籃、及佩袋類 ○寫真器 ○樂器 ○鈕釦扣子類 ○鐵山使用ノ爆發物

壹割五分稅 (從價)

烟管及烟囊 ○袋物類 ○毛、皮、狐、獾、獺、海狸、兔等ノ類

貳割稅 (從價)

○蒔繪ノタル漆器類 ○玩具 ○首飾品 時辰鐘、及時辰表并其部分品類

貳割五分稅 (從價)

寫眞 ○花筒、燈物其他室內裝飾品ニ屬スルモノ ○監甲細工類 ○繪畫(被裝ノ有無ニ拘ハラス) 彫刻物

三割稅 (從價)

○烟花類 ○玻璃珠 ○磁銃及其使用品 ○珊瑚珠 ○眞珠及寶石類 ○衝球象棋骨牌、○其他一切ノ遊戯品

第九 船舶

蒸氣船 每噸銅錢貳百五拾文 ○風帆船 每噸銅錢百貳拾五文

第十 免稅品

○貨幣 ○金銀地金 ○旅客行李ノ具 ○貨物見本(相當ノ額數) ○新聞紙 ○廣

告紙類 ○書籍地圖海圖 ○招牌 ○修藝勸業ノ雕形類 ○農具 ○醫術用器具

○尺度、衡量、寒暖計、晴雨儀、驗液器、針盤、其他學術用器具并其使用品 ○活字(新

古ノ別ナク) ○消防器具 ○船用具 若シ不用ノ者ナ陸上シテ使

及繩類(貨物包裝ニ用フヘキ) ○包袋諸席行唐

第十一 禁制品

○鴉片(藥用鴉片ヲ除ク) ○偽藥 ○擬造貨幣類 ○淫猥私褻ノ畫圖肖像 ○軍器

類 凡ソ軍械ノ式樣及ヒ防身ノ物件ハ須ラテ領事官ヨリ朝鮮官

類ノ准單ヲ收到シタル上方ニ進口ヲ准メ輸出賣ルルヲ准セ

朝鮮國海關稅目

輸出ノ部

免稅

○貨幣 ○金銀地金及砂金 ○旅客行李ノ具

五分稅 (從價)

別項ニ掲載セサル一切ノ輸出品

壹割五分稅 (從價)

一紅蔘 朝鮮ノ商民日本ニ帶入スルトモハ應ニ一割五分ノ稅ヲ納ムヘシ如シ日本ノ商民朝鮮政府ノ特許ヲ經スレテ私カニ輸出スル者アレハ查出沒收スヘシ右證據トシ兩國ノ全權大臣此稅目ニ名ヲ記シ印ヲ蓋スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日

全權大臣 辦理公使 竹添進一郎 印

全權大臣 督辦交涉通商事務 閔泳穆 印

○第三十五號 十六年十月廿三日

(內務卿 連名)

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトモハ内務卿ハ試驗ヲ要セスレテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ルトモハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスレテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損口失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ簡手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若シハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但シ其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ調査シ中央

衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○第三十六號 十六年十一月十日 (大藏卿) 連名

明治十四年二月第拾四號布告地租徵收期限第四期左ノ通改正ス

四期 翌年二月一日ヨリ 同 五分

右奉 勅旨布告候事

○第三十七號 十六年十一月十日 (陸軍海軍) 兩卿連名

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮拘留ニ換フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第三十八號 十六年十一月十日 (司法卿) 連名

樺戶空知兩集治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ重罪ニ該ル者ハ當分ノ内札帳始審裁判

所ニ於テ明治十五年六月第三十號布告ニ準シ處分スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第三十九號 十六年十一月十二日 (司法卿) 連名

明治十四年^{十二}月 第六十七號布告刑法附則第四章第四十九條左ノ通改定ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜其額ヲ定ム可シ

日當五拾錢以下

旅費一里拾錢以下

止宿料一宿貳拾五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當并ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

右奉 勅旨布告候事

○第四拾號 十六年十二月七日

(大藏卿
連名)

明治十七年二月一日ヨリ明治九年^十月第百貳拾九號布告ヲ廢止候條朝鮮國トノ貿易ハ總テ他ノ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ

但當分ノ内各開港場ノ外長崎縣下對馬國嚴原山口縣下長門國下ノ關福岡縣下筑前國博多ノ三港ニ限リ朝鮮國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積

卸ヲ許シ日本形船舶ニ限リ出港手數料トシテ正金壹圓入港手數料トシテ正金貳

圓ヲ徵收ス

右奉 勅旨布告候事

○第四十一號 十六年十二月十二日

(大藏卿
連名)

明治十五年^{十二}月 第六十三號布告煙草稅則中左ノ通追加ス

第十三條

三十匁ノ次ヘ

四十匁

一錢六厘

二錢四厘

三錢二厘

五十匁ノ次ヘ

八十匁

三錢二厘

四錢八厘

六錢四厘

第十八條

同濃青色ノ次ヘ

同淡黑色

同三錢二厘

明治十六年

〇五十二

同黃綠色ノ次へ

同嬌栗色

同四錢八厘

同紫色ノ次へ

同朱色

同六錢四厘

右奉 勅旨布告候事

○第四拾貳號 十六年十二月十八日

(大藏卿
連名)

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其己ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○第四拾三號 十六年十二月二十日

(大藏卿
連名)

酒造稅則醫藥營業稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スル片ハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四拾四號 十六年十二月二十一日

(大藏卿
連名)

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以内其地租及ヒ地方稅ヲ免ス

右奉 勅旨布告候事

○第四拾五號 十六年十二月二十一日

(農商務卿
連名)

明治十二年二月第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則第四條ニ左ノ三項ヲ加ヘ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀所持スルモノハ浦役人ノ検査ニ供シ且其検査證書ヲ
申受ヘシ

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當
ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ二名以上ノ保證人ト連署シ
テ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シ
テ交付スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四拾六號 十六年十二月二十八日 (陸軍海軍)
(兩卿連名)

徵兵令別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵兵令

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノト
ス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齢滿二十歳
ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役
中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限己ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習
或ハ觀兵ノ舉アルトキ若シハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍現役兵ハ陸軍所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及ヒ岬嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校小學校ノ卒業證ヲ除ク書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ

服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアルヘシ練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲メ但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲メ平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ痲疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 效正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ト後備兵ニ在トテ問ハス復習誦呼ノ爲メ召集スルコトナレ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏判任以上及ヒ戸長

第二項 教導職試補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ
大政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第二十二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪
ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若シハ相續人ヲ罷メ更ニ定メ
ル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能
ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳
以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及其戸主ノ嗣子或ハ承祖
ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具
等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル
ニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齢六十歳未満ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハ
サルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタ
ル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト
能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ
戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當

ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區トナシ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣ニ兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身量檢査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納シ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ

徴收ス

補充員ノ數ハ概テ現役徴員五分ノ二ヨリ少カササルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徴集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徴員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徴集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徴員ヲ終リタル者年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徴員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徴員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徴集ス

第三十三條 豫備徴員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徴集ス

但第二豫備徴員ヲ徴集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナレハ自身以下戸主トアルモノ皆同シヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月

日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其理由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スルモノハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者戸主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ居書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在糧中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レソカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒ直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒズ徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日ル者ハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其定例編入スヘキ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レソカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管師管	國	名
第 一	武藏ノ内	赤坂區 神田區 日本橋區 芝區 麻布區
	淺草區 横濱區 荏原郡 南豐島郡 北豐島郡 南足立郡 北足立郡	四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區
	東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 久良岐郡 橘樹郡 都筑郡	
	新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡 横見郡 秩父郡 兒玉郡	
	那珂郡 賀見郡 大里郡 旆羅郡 榛澤郡 男衾郡	
	相模甲斐伊豆上野信濃ノ内 南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 埴科郡 更級郡	
	相模甲斐伊豆上野信濃ノ内 高井郡 下高井郡 上水内郡 下水内郡	

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	
武藏ノ内 本所區 北葛飾郡 南葛飾郡 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 安房 上總 下總 常陸 下野	陸前ノ内 仙臺區 柴田郡 名取郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡	陸前ノ内 宮城郡 栗原郡 登米郡 加美郡 志田郡 玉造郡 遠田郡 氣仙郡	陸中 陸奥 羽後 尾張ノ内 名古屋區 海東郡 北安曇郡 上伊那郡 三河遠江駿河伊勢志摩紀伊ノ内 東筑摩郡 西筑摩郡	尾張ノ内 丹羽郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前	攝津ノ内 東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 有田郡	日高郡 東牟婁郡 山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀	攝津ノ内 神戸區 西成郡 島上郡 島下郡 豐島郡 能勢郡 播磨 淡路 若狹	丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	阿波 讚岐 伊豫 土佐	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩

第六 第十 豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬

第七 渡嶋 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千嶋

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管
下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

○第四十七號 十六年十二月廿八日 (大藏卿 連名)

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ル

マテ中山道ニ沿ヒ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行
スルモノトス

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行
スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スル片ハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
満期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スルモノ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシ片ハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セントキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受買賣ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セント認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債証書汚染又ハ毀損セントキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿

ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ヶ年ヲ過クルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外

此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四拾八號 十六年十二月廿八日

(大藏卿
連名)

金札引換無記名公債證書條例左之通制定シ明治十三年十月第四十七號布告金札引換公債條例第三條ヲ停止ス

金札引換無記名公債證書條例

第一條 金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス

此公債證書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス

第二條 此公債證書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシ

第三條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此證書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日

以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受買賣スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スル者拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セントキハ其事由并證書面ノ金高記號

番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出可シ
大藏卿ハ其證書ノ授受買賣ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキ
ハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於
テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコ
トヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證
書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ
其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラザレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ
本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿
ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ヶ年ヲ過クルトキハ
一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外
此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四十九號 十六年十二月廿八日 (司法卿 連名)

治罪法第八拾三條ニ記載スル事件ニ付高等法院ヲ開カサル時ハ通常裁判所ニ於テ裁
判スルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第五十號 十六年十二月廿八日 (内務卿 連名)

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、鍍金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タル片ハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ第六條 古物商ハ營業者タルト否トテ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十

九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及寄藏スル片ハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査レ之ヲ送押フルコトアルヘレ但費用ハ
居人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達レタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏レタルト
キ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持レタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ
若シ届出テスレテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサルモノハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載レタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ
亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時
宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古
物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條
ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケ
タル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルヲ得警視廳

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ従フヘシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換レタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形
狀徽章番號柄柄模様價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ
捐所ノ類ヲ云フ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換レタルトキハ其物品ヲ原狀ノ
儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ買渡シ又ハ交換レタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載
シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知リ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察
署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セザル者ハ留置セラレ、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トテ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ナ除ク縣令ニ於テ便宜取設ク内務卿ニ届出ツヘシ

明治十七年 太政官御布告

○第一號 十七年一月四日

(内務司法
兩卿連名)

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ナシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ除ク定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

○第二號 十七年一月廿一日 (内務卿連名)

朽木縣廳位置ヲ下野國河内郡宇都宮ニ改定ス

右奉 勅旨布告候事

○第三號 十七年一月廿六日 (内務卿連名)

明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法ニ依リ宮崎縣下日向國臼杵那珂北諸縣ノ三郡ヲ左ノ通分割ス

西臼杵郡 北臼杵郡

北那珂郡 南那珂郡

北諸縣郡 西諸縣郡 東諸縣郡

右奉 勅旨布告候事

○第四號 十七年二月十六日 (大藏卿連名)

根室縣下千嶋國及北見國紋別常呂網走斜里ノ四郡ニ於テハ拾昆布稅收穫高ノ現品一割ヲ徵收シ函館縣下渡嶋國松前郡ニ於テハ帆立身稅收穫高ノ現品二割ヲ徵收ス但本年五月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○第五號 十七年二月廿三日 (司法卿連名)

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス但明治八年(十二月)第百九十六號布告訴訟用紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス
右奉 勅旨布告候事

(別紙) 民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付

ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額 五圓マテ 貳拾錢

同拾圓マテ 三拾錢

同貳拾圓マテ 六拾錢

同五拾圓マテ 壹圓五拾錢

同七拾五圓マテ 貳圓貳拾錢

同百圓マテ 三圓

同貳百五拾圓マテ 六圓五拾錢

同五百圓マテ 拾圓

同七百五拾圓マテ 拾三圓

同千圓マテ 拾五圓

同貳千五百圓マテ 貳拾圓

同五千圓マテ 貳拾五圓

同五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアルヘシ

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評定人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ヌ受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ヌ受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辯償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ拾圓以上百圓以下

ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ

例ヲ用ヒス

○第六號 十七年三月十四日 (大藏卿 連名)

明治十年(十一月)第七十九號布告第二條第二項左ノ通改正ス

酒類造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ酒造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類並酒造用諸器物建物ハ自他ノ處有テ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵

收ス

右奉 勅旨布告候事

○第七號 十七年三月十五日 (大藏卿 連名)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七嶋小笠原函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、原野、雜種地

第一類又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜地、堤塘、井溝及公衆ノ用ニ供ス

ル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝

ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 開墾餘下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ムルトキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其處得テ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其

地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徵收ス但買入ノ土地ハ其買取主ニ於テ之ヲ納ムヘ
第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得レ月
分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免レ用器水路、溜池、隄塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲
ストキ其地租ハ其地工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス
免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得レ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ歛下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租
ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘ開墾地ハ十五年以內
ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 歛下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ヨリ出

ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ歛下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 歛下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以內歛下繼年
期ヲ許可ス

第十九條 歛下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ違ヒス他ノ
地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以內免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復
ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以內七割以
下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原
地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以內免租繼
年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ

處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ違脱スル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲レ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラ

サルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルト

キハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○第八號 十七年三月二十一日 (海軍卿 總名)

海軍治罪法別冊之通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

海軍治罪法目錄

第一章 總 則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ權限

第四章 海軍檢察

第五章 審 問

第六章 判 決

第七章 軍中處分

海軍治罪法

第一章 總則

第一條 海軍々人ノ犯ンタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百條第百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ヲ別テ四ト爲ス

一 東京軍法會議

二 鎮守府軍法會議

三 艦隊軍法會議

四 合圍軍法會議

東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時艦内ニ之ヲ設ケ合圍軍法會議ハ合圍間之ヲ設ケ

第八條 軍法會議ハ判士長一名判士四名主理録事各一名若クハ數名ヲ以テ之ヲ開ク判士長ハ佐官ヲ以テ判士ハ尉官主理ハ委任官録事ハ七等官以下ヲ以テス若シ被告入陸海軍中尉以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

被告人陸海軍少將以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ勅任官ノ主理ヲシテ其職ヲ掌ラシム

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉二名若クハ一名 中尉二名若クハ三名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若クハ中佐 一名	少佐二名若クハ一名 大尉二名若クハ三名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	中佐二名若クハ一名 少佐二名若クハ三名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大佐二名若クハ一名 中佐二名若クハ三名	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	少將二名若クハ一名 大佐二名若クハ三名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	中將二名若クハ一名 少將二名若クハ三名	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	中將三名若クハ二名 少將一名若クハ二名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍屬
大將 一名	大將 一名 中將 三名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍屬

第九條 軍人ニ非サル勅任官ヲ審判スル時ノ軍法會議ハ將官ヲ審判スルノ例ニ從フ

第十條 外國又ハ戰地ヘ數隻ノ艦船ヲ差遣スル時ハ海軍卿ヨリ其先任艦長ニ艦隊軍法會議ヲ開クノ權ヲ付與スルコトアル可シ此場合ニ於テハ此權限司令官ニ同シ

第十一條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ海軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス勅任官ニ主理ヲ命スル時モ亦同シ

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲シ奏任官ヲ以テ主理若クハ錄事ト爲ス時東京并ニ鎮守府ニ於テハ海軍卿之ヲ命シ艦内ニ於テハ司令官之ヲ命ス可シ但檢察官若クハ審問委員ヲリシ者ハ其事件ノ判士ニ加フルコトナシ

第十二條 艦隊軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツヘキ將校缺乏スル時ハ司令官ノ上申ニ依リ海軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム但外國ニ在テハ司令官他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 東京軍法會議ハ左ニ記列スルモノヲ審判ス

- 一 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セサル軍人其他海軍ノ用ニ供スル艦船ノ乗員重罪輕罪ヲ犯シタル者
- 二 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セズ海軍刑法第三條第四條ニ依

リ處斷ス可キ者

三鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セサル海軍監獄ニ在ル未決已決ノ囚人ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十四條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一鎮守府長官ノ麾下ニ屬スル軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者

二鎮守府ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者

三鎮守府所管ノ監獄ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一司令官ノ麾下ニ屬スル軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者

二司令官ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者

三艦隊内ニ在ル來決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十六條 艦隊若クハ數隻ノ艦隊外國へ出發ノ後其軍法會議ノ權限ニ屬スル者内國ニ在テ犯罪發覺シタル時ハ鎮守府軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第十七條 海軍卿ハ時宜ニ依リ甲軍法會議ノ權限ニ屬スル事件ヲ乙軍法會議ニ移シ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 軍人任官若クハ就役前罪ヲ犯シ在官現役中發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二名以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス但陸軍々人軍屬ト共犯ニ係ル時ハ第十九條ノ例ニ從フ

第二十一條 海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ

第二十二條 重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十三條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第四章 海軍檢察

第二十四條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ照憑ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スル者ハ所管長官若クハ所屬長ノ命令ヲ受ケテ海軍檢察ノ職務ヲ行フ

東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ノ主理

鎮守府及ヒ艦船營ノ士官

學校監事

第二十六條 海軍檢察ノ職務ヲ行フ者現行犯アルコトヲ知リタル時ハ時宜ニ因リ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ルコトヲ得

第二十七條 各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ海軍檢察ノ處分ヲ爲シ又ハ第二十五條ニ記載シタル諸官ニ命ジ若クハ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ被告人ノ所屬長東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十八條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第三十條 軍人其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルコトヲ知リタル時ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ被告人ノ所屬長ニ告發ス可シ

第三十一條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理司法警察官憲兵若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十二條 司法警察官憲兵及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタ

ル時ハ速ニ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ
交付ス可シ

第三十三條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ被告人ノ所屬長又
ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ交付ス可シ

第三十四條 告訴人告發人ハ願下チ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セソコトヲ請求スルコ
トヲ得

第三十五條 第二十五條ニ記載シタル諸官海軍檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作
リ證據文書ヲ添テ各其所管長官若クハ所屬長又ハ委托ヲ受ケタル各廳長ニ具申ス
可シ

第五章 審問

第三十六條 鎮守府長官司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス
可シ
被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ

被告人士官以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從
ヒ鎮守府長官ハ判士ニ司令官ハ麾下ノ將校ニ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ若
クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十七條 各廳長被告事件ノ具申ヲ受ケ若クハ自ラ檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ速
ニ其事件ヲ東京軍法會議ノ主理ニ移シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付ス可シ

第三十八條 東京軍法會議ノ判士長主理ヨリ被告事件ノ交付ヲ受ケタル時ハ速ニ左
ノ處分ヲ爲ス可シ

被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ
被告人下士以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從
ヒ判士ニ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十九條 海軍卿被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ審問若クハ
判決ニ付スルノ命令ヲ下ス可シ其命令ヲ受ケタル鎮守府長官司令官若クハ判士長
ハ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ又ハ直ニ判決ニ付ス可シ

第四十條 審問委員審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十一條 審問委員ハ召喚狀ヲ受テ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十二條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十三條 審問委員ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走スルノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ拘引狀ヲ發ス可シ

第四十四條 審問委員ハ拘引狀ヲ受テ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ委シテ之ヲ執行スルコトヲ得

第四十五條 審問委員ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ合狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

トヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十六條 審問委員ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ハ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十七條 審問委員ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十八條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ陸檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ

其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得
其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十條 審問委員ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所
在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ住スル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十一條 審問委員ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作
リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサ
ルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ
被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 審問委員ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要
スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命ジテ其鑑定ヲ爲サシム
可シ
鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得
サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十三條 審問委員ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セシメテ其呼出ニ應セサ
ル時ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時
ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科スヘシ

第五十四條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金
ヲ禁錮ニ換フル時モ亦審問委員之ヲ命ス

第五十五條 審問委員ハ審問ニ於テ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ
共犯ヲ覺擧シタル時ハ之ヲ鎮守府長官司官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申

スヘレ

第五十六條 審問委員ハ審問終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟文書ト共ニ之ヲ鎮守府長官司合官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可レ

第六章 判決

第五十七條 鎮守府長官若クハ司令官審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人上長官以上及同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可レ
東京軍法會議ノ判士長審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可レ

第五十八條 海軍卿審問事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ鎮守府長官司合官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下ス可レ

第五十九條 鎮守府長官若クハ司令官軍法會議ヲ開ク時ハ其命令書ヲ判士長ニ下シ其牒本ヲ訴訟文書ト共ニ主理ニ下付シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可レ

東京軍法會議ノ判士長軍法會議ヲ開ク時ハ之ヲ主理ニ通知シ主理ハ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可レ

第六十條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士主理録事各其席ニ就キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勲等職名氏名族籍年齢住所ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審問委員ノ報告書ヲ朗讀セシム

其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム

第六十一條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ命シテ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシムヘシ

法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル

第六十二條 判士長ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病其他正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受テ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十四條 被告人逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セス又ハ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十五條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ

第六十七條 判士長ハ證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲シ得

鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ各其所管長官ニ具申シ東京軍法會議ノ判士長ハ其證人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申ス可シ其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十八條 判士長ハ法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲シ得

法廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ第六十七條ノ例ニ從ヒ具申ス可シ若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ

第六十九條 判士長ハ被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ審問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ

第七十條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シ之ヲ作り判士長判士録事署名捺印ス可シ

一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス
二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪トナラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハ

ラサル時ハ其旨ヲ記ス

三 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四 被告人ノ官位勳等職名氏名族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第七十一條 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添ヘ各其所管長官ニ具申ス可シ

第七十二條 鎮守府長官司合官ハ左ニ記載スル事件ハ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス

死刑

上長官及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪

士官准士官及ヒ同等軍人ノ重罪

第七十三條 東京軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添ヘ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請フ可シ

第七十四條 鎮守府長官司合官ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ其專決ノ權アル事

件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ海軍卿ニ上申ス可シ

第七十五條 海軍卿ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ其具申スル所ノ鎮守府長官司合官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

海軍卿ハ死刑並上長官以上及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪並士官及ヒ同等奏任官軍人ノ重罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十六條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士主理録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十七條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七十八條 行刑ニ關スル方法ハ海軍卿別ニ之ヲ定ム

第七章 軍中處分

第七十九條 臨戰若クハ合國ノ地ニ於テハ其司令官麾下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ署キ被告人ノ官等ニ拘ハラヌ之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルルコトヲ得

第八十條 合國ノ地ニ於テハ第十三條第十四條第十五條ニ記載シタル者ハ合國軍法會議ノ權限ニ屬ス

第八十一條 臨戰若クハ合國ノ地ニ於テハ其司令官被告人ノ官等ニ拘ハラヌ直ニ審判及ヒ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第八十二條 臨戰若クハ合國ノ地ニ於テハ其司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第八十三條 臨戰若クハ合國ノ地ニ於テハ其司令官時宜ニ因リ此治罪法ノ條目ヲ省ク略處分セシムルコトヲ得

第八十四條 合國軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ海軍卿ノ指定

スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

○第九號 十七年三月廿五日 (內務卿 連名)

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴、風癩者及雇人 雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處罰ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品、代價及買主ヲ調査スルニ

差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタル片若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタル片ハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳、流質物賣拂帳、及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サレシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府ヲ除ク縣令ニ於テ便宜取

設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○第十號 十七年四月廿四日

(農商務卿連名)

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

船舶積量測度規則

第一條 凡ソ船舶海軍艦船ヲ除クノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス

第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以

テ一石トス

第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條 漁船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測定ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○第十一號 十七年五月一日

(大藏卿 連名)

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

行ス

但明治八年七月第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ附フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手 印稅五厘

一委任狀 同五厘

一金高記載ナキ約定証文	同	壹錢
一遺物証文	同	壹錢
一跡式讓証文	同	壹錢
一讓與証文	同	壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金証文	同	壹錢
一耕地小作証文	同	壹錢
一雇人請合狀	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ証文	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用証文	同	壹錢
一住所預リ証文	同	壹錢
一家屋預リ証文	同	壹錢
一諸物品切手	同	壹錢
一借地借家証文	同	壹錢
一賈買仕切書	同	壹錢

一保險証文

一併會社株券	同	壹錢
一送金手形	同	壹錢
一金錢通帳	一年以内 一冊ニ付	同 壹錢
一諸物品通帳	同	同 壹錢
一金錢判取帳	同	同 貳拾錢
一諸物品判取帳	同	同 貳拾錢
一結社約定書	同	同 壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル証書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準レ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲グル所ノ證書ハ金高五圓以上ノ者ニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀 印稅壹錢

一營業ニ關スル請取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス
 ヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一金錢借用証文 一 地所 買賣証文
- 一金高記載アル諸物品預リ証文 一 金高記載アル諸物品借用証文
- 一諸物品買賣証文 一金錢定期預リ証文
- 一金高記載アル諸般ノ契約證書
- 金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢
- 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同 貳錢
- 金高五拾圓以上百圓未滿 同 四錢
- 金高百圓以上百五拾圓未滿 同 六錢
- 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同 八錢
- 金高貳百圓以上三百圓未滿 同拾壹錢

- 金高三百圓以上四百圓未滿 同拾四錢
- 金高四百圓以上六百圓未滿 同貳拾錢
- 金高六百圓以上八百圓未滿 同貳拾六錢
- 金高八百圓以上千百圓未滿 同三拾貳錢
- 金高千百圓以上千四百圓未滿 同三拾八錢
- 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同四拾四錢
- 金高千七百圓以上貳千圓未滿 同五拾錢
- 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 同六拾錢
- 金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同七拾錢
- 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同八拾錢
- 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同九拾錢
- 金高四千圓以上 同 壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス

ハシ

金高百圓未滿

印稅四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文

一質物預リ書
小札

金高壹圓以上貳拾圓未滿

印稅壹錢

金高貳拾圓以上

同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲スルハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ム所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅貳錢

金高百圓以上

同 四錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五拾圓未滿

印稅壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同 貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同 四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿

同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿

同 貳拾五錢

金高貳千圓以上

同 五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラヌ稅率

ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモ

ノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在

ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼

用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケ

テ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌シコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏准官吏若クハ布告布達又ハ送ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス證書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品

ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該

帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之ニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ

更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數

盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高

又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若ク

ハ金高ニ増減ヲ生スル者ハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後証書帳簿ノ受取人ニ於テ
相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ
手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ料
又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ
以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモ
ノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請入證人トシテ加印シタルモノハ各正犯
ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下科
料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾
圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱
發ノ例ヲ用ヒス

○第十二號 十七年五月二日 (大藏卿連名)

北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲セントスルモノハ其地ノ管廳へ願出許可ヲ受
シヘシ違フモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタ
ルモノハ其代價ヲ追徴ス

右奉 勅旨布告候事

○第十三號 十七年五月七日 (内務大藏卿連名)

明治十三年四月第十六號布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正ノ十七年度ヨリ施行ス

一戸長以下給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○第十四號 十七年五月七日 (内務卿 連名)

明治十三年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徴収方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ

害スルコトアリト認ムルハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリ

ト認ムルハ何時タリテ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選

スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ徴收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セシメ又ハ議員招集ニ應セシメテ會議ヲ開クヲ得ス

及議定スヘキ議案ヲ議定セシメ又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條

ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ

其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三

款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戶長數人ノ所

轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶長ヲシテ其評決ノ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第十五號 十七年五月七日 (内務卿 連名)

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ息納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會職ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年四月第二十四號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○第十六號 十七年五月二十三日 (農商務 卿連名)

自今北海道ニ於テ臘虎并臘獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス

右奉 勅旨布告候事

○第十七號 十七年五月二十三日

(大藏卿
連名)

明治十六年^{十二}月 第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例第一條中山道ニ沿ヒノ下

ニ(及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ)ノ二十一字ヲ加フ

右奉 勅旨布告候事

○第十八號 十七年五月二十六日

(大藏卿
連名)

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年^九月第九號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一十年後廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ

兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘ

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大

藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ
時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時

間中何時ニテモ兌換スヘシ

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行
本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作シ之ヲ大藏卿

ニ報告スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ
但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スル
コトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ
於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○第拾九號 十七年六月七日 (農商務卿連名)

商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

商標條例

第一條 商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登録ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登録ノ日ヨ
リ十五年間之ヲ専用スルノ權ヲ有ス可シ

第二條 商標ヲ専用セント欲スル者ハ願書ニ見本并明細書ヲ添ヘ登録ヲ願出ツ可シ
其明細書ニハ商標ノ説明、用方并其商品ノ名目種類ヲ詳記ス可シ
其登録ヲ經タル者ハ登録證ヲ下付ス可シ

第三條 商標ノ登録ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日附ヨリニヶ月間之ヲ留置其間
ニ之ト牴觸ス可キ願書到達セザレハ之ヲ登録ス可シ
若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ専用センカ爲メ登録
ヲ願出ツル者アリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者
ハ共ニ之ヲ却下ス可シ

第四條 登録商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ム可シ

第五條 左ノ商標ハ登録ヲ願出ツルコトヲ得ス
一 己ニ登録セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フ

ル者

- 二 地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章ノミヲ以テスル者
- 三 同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上濫用セル目印ヲ以テスル者
- 四 新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ヲハレキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者
- 第六條 登録商標主其専用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ケ年ニ及ヒタルトキハ三ケ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ
- 第七條 登録商標専用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ケ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ
- 第八條 登録商標主其商標ノ専用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登録ヲ届出ツ可シ但専用年限ハ最初登録ノ日ヨリ通算ス可シ
- 第九條 登録商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルト

キハ更ニ其登録ヲ届出ツ可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分ス可シ

第十條 登録商標専用滿期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ滿期三ケ月前ニ更ニ其登録ヲ届出ツ可シ

第十一條 登録證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ届出ツ可シ

第十二條 商標ヲ登録セシ後第五條ニ觸レ又ハ登録願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタル時ハ其登録無効ニ歸シ登録證ヲ返納セシム可シ

第十三條 登録商標主其業廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其専用權ヲ失ス休業三ケ年ニ及フ者亦同シ

第十四條 商標ノ登録ヲ届出ツル者ハ左ノ手数料ヲ納ム可シ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付ス

- 一 商標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フ

二 商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル者及滿期續用ヲ願出ル者ハ商標一個ニ付金壹圓

三 登録證ノ再渡ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金壹圓

第十五條 登録商標主其專用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ並要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十六條 登録商標ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十七條 登録商標ニ相紛ラハシキ商標ヲ作りテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條 第十六條第十七條ノ違反ニ係ル商標ヲ附シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違反ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離ス可カラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ得及商標ノ登録ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條 第六條第七條ノ届出ヲ其期限内ニ爲ササル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第二十三條 第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登録商標主ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十四條 登録商標主告訴ヲ爲レタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附レタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ於テ其登録ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登録ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハレキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用セソカ爲メ登録ヲ願出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ農商務卿ニ於テ其商標ノ使用ヲ最久シキト認定スルモノヲ登録シテ其他ヲ却下ス可シ

本條例第三條ニ依リ處分ス可キ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置附則第一項ニ依リ願出ツルモノニ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ之ヲ却下ス可シ

前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手数料ヲ返付ス

○第貳十號 十七年六月十日 (内務卿連名)
單身戸主死亡又ハ除籍ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續者ヲ届出サル者ハ總テ絶家トス

右奉 勅旨布告候事

○第二十一號 十七年六月十三日 (文部卿連名)

明治十四年(七月)第卅八號布告但書中第八條トアルヲ第十四條及第十五條ト改正ス

右奉 勅旨布告候事

○第二十二號 十七年六月十三日 (内務大藏兩卿連名)

本年^五月第十三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正候處同布告發行以前既ニ十七年度地方稅豫算額ヲ決定シタル府縣ニ於テハ特ニ臨時府縣會ヲ開カス常置委員ノ議決ヲ取リ之ヲ施行スルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第二十三號 十七年七月四日 (内務卿連名)

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年^五月第二十二號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第二十四號 十七年九月二十日 (大藏卿連名)

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

大藏省證券條例

- 第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス
- 第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス
- 第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ
- 第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別テ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ
- 第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受買賣スルヲ得
- 第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ
- 第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サズルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサル者トス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セントキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ証券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其眞正タルヲ

證認シ得ヘキ者ニアラザレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セントキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セントキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受買賣引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セントシ証券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ滿足スル保証人二人以上ノ証明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○第貳拾五號 十七年九月二十九日

(内務卿 連名)

明治十三年一月第一號號布告藥品取扱規則第二條但書中「無費ニテ其」ノ五字ヲ削除ス
右奉 勅旨布告候事

○第貳拾六號 十七年十月二日

(大藏卿 卿名)

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限通用ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○第貳拾七號 十七年十月三日

(司法卿 連名)

明治十六年一月第一號號布告裁判所一覽表中左ノ通増補改正ス但新置裁判所開廳ノ期日
ハ司法卿ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

一山形始審裁判所酒田支廳管内鶴岡ニ治安裁判所ヲ置キ羽前國東田川西田川兩郡ヲ
管轄ス

一秋田始審裁判所大曲支廳管内横手ニ治安裁判所ヲ置キ羽後國雄勝郡及ヒ平鹿郡ノ
内ヲ管轄ス

一千葉始審裁判所水更津支廳管内北條ニ治安裁判所ヲ置安房全國ヲ管轄ス

一福岡始審裁判所久留米支廳管内久留米治安裁判所管轄郡名中全國十郡トアルヲ三

淵ノ内上妻下妻生葉竹野山本御原御井ノ十八字ニ改メ同柳川治安裁判所管轄中

(三淵ノ内)ノ四字ヲ加フ

一秋田始審裁判所大曲支廳管内大曲治安裁判所管轄郡名中平鹿ノ下(ノ内)ノ二字ヲ
加フ

一宮崎始審裁判所管内宮崎治安裁判所管轄郡名中北諸縣ノ内トアルヲ(東諸縣)ト改

メ那珂ノ内トアルヲ(北那珂南那珂ノ内)ト改メ同管内都城治安裁判所管轄郡名中

北諸縣ノ内トアルヲ(北諸縣)ト改メ那珂ノ内トアルヲ(南那珂ノ内)ト改メ更(西

諸縣)ノ三字ヲ加ヘ同管内延岡治安裁判所管轄郡名中臼杵トアルヲ(東臼杵)ト改

右奉 勅旨布告候事

○第二十八號 十七年十二月八日

(内務卿 連名)

明治十三年四月第十五號布告府縣會規則第三十一條中三月ヲ十一月ト改正シ明治十八

年十一月ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○第二十九號 十七年十二月八日

(内務大藏
兩卿連名)

明治十三年^四月第六十號布告地方稅規則第四條一項左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月マテ九箇月ヲ以テ一周年度トス其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告ス可シ

右奉 勅旨布告候事

○第三十號 十七年十二月二十二日

(農商務
卿連名)

西洋形船舶檢査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

西洋形船舶檢査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ檢査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條 船舶檢査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 檢査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其最寄檢査所ニ願出ヘシ

第四條 檢査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及サル風帆ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 檢査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ風帆ニ係ル檢査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ適當ト認ムル片ハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル檢査證書ヲ交付ス但地方廳ノ檢査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス
一番號

- 一 船名
- 一 船主氏名
- 一 定置場名
- 一 登録噸數
- 一 端船其他必要ノ所屬品
- 一 航行シ得ヘキ場所ノ定限
- 一 證書有効期限
- 一 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ
- 一 公稱馬力
- 一 汽機ノ種類
- 一 汽罐ノ種類
- 一 最大汽壓
- 一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定置場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船体若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サハルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ

検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨検スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケヌシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査証

書ニ記載セル最大氣壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスレテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査証書ニ記載セル船艙其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條 第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ

科料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○第三拾壹號 十七年十二月二十七日

(内務陸軍海軍三卿連名)

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但従前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊) 火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥類發火藥爆火藥、ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其他劇發質ノ物品ハ人民ニ於テ製造スルコ

トヲ禁ス但烟火マツナノ類ハ此限ニアラス

第二條 火藥類火藥劇發火ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免警視廳

許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムルトキハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲレテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下クヲ停止シ内務卿

ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非キレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ証書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非ステテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡証書ヲ取リ置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工煙火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未満若クハ白痴風癪ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受メトスル時銃砲若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用途ニ供スル者ハ其省ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用

火藥

三百目

雷管

五百個

松船設備銃砲用

大砲一門ニ付

火藥 五十發分

導火管類

七十個

煙火製造用

火藥

五百目

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可証ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡スコシ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ証書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百箇迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬箇迄煙火製造

人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏

スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫

目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セシトスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添

ヘ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱瀧松

ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵

釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ

二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺

以上ニシテ五寸ヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五

十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質

ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントス

ル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許

可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可

シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所

及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ携帯シ運搬畢ラハ直ニ之

ヲ返納ス可シ若其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若ク

ハ亞鉛製ノ器ニ入シ其外部ハ鎊包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ
火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺橫二尺五寸水路ヲ建テ護送人ヲ
附ス可シ但舩積スル時ハ明治六年八月第二百九十二號布告危害品舩積法ニ從フ可シ
第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看
守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法
第五百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百五十八條第五百五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル
者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス

第二十八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十

條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二
十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル
者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條
第二十四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁
止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一 従前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又
同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハニ願出ルニ
於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一 従前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ
差許シ従前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又従前火藥類ヲ貯

藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○第三十二號 十七年十二月二十七日

(內務司法
兩卿連名)

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊) 爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重

懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ証明スルコト能ハサルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其罪証ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例

チキナQ-6

ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハ
サル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年
以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○第三十三號 十七年十二月二十七日

(農商務卿連名)

内國郵便往復葉書及萬國郵便聯合往復葉書ヲ發行シ明治十五年十二月二十五日
郵便條例中左ノ通改正追加シ明治十八年一月一日ヨリ施行ス

第一條中 二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

第十七條中 第二種郵便物ノ下「一葉壹錢トアルヲ」(葉書一葉壹錢)ト改メ
(往復葉書一葉貳錢)

第二百三條中 二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

右ノ外各條中葉書トアル下ニ往復葉書ノ四字ヲ加フ

右奉 勅旨布告候事

明治十八年八月六日出版御届
同年同月出版

定價金貳圓

愛媛縣平民

編輯兼出版人

梶原猪之松

岐阜縣下美濃國厚見郡

岐阜泉町五番地寄留

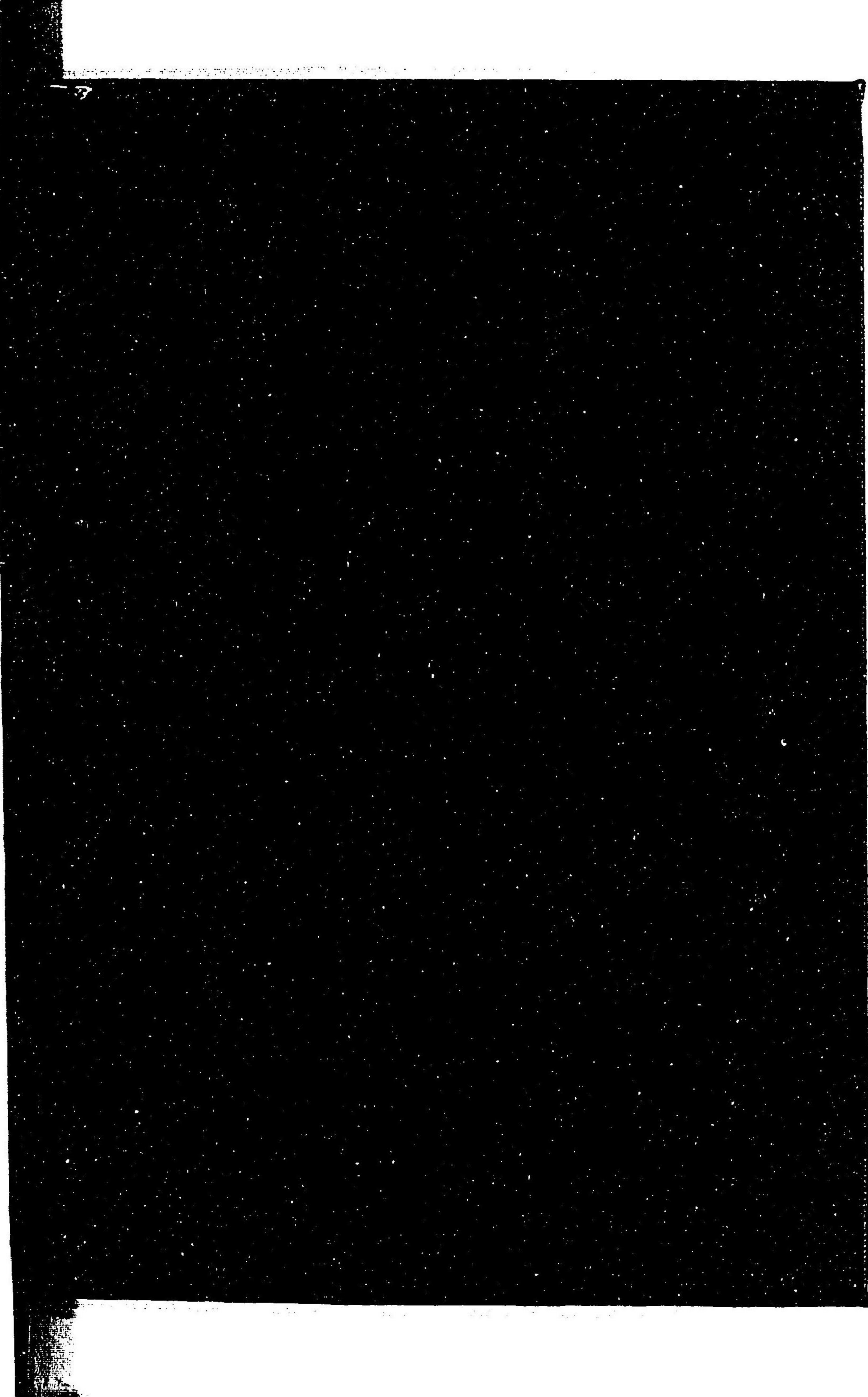
發兌書肆

啓文社支局

愛知縣下名古屋區關鐵治町

四丁目百十五番地

井田-6



禁電子式複写

